

カーボンクレジットを活用した 脱炭素型・高収益稲作体系の検証と普及



FAEGER

【浪江町、広野町】×【(株)フェイガー】

1 解決したい地域課題

脱炭素×農業による地域振興・稲作経営での新たな収入源の創出

- ・浪江町と広野町はそれぞれ2020年、2022年にゼロカーボンシティ宣言を公表しており、脱炭素に向けた施策を推進する必要がある。
- ・浪江町は順次避難指示が解除されているが、町内人口は約2,200人と低いままである（震災前は約21,000人）
- ・震災以降、両町では農作物の風評被害に伴う米価下落や人口減少による担い手不足が課題となっている。このため、農家の所得向上にむけた施策が必要。そのため弊社は、脱炭素化と農家所得の向上に向けた取組として、J-クレジット「水稻栽培における中干し延長」の実施を提案する。

2 実証事業の到達目標

J-クレジットに取り組む農家が増え、両町の脱炭素化及び農家の収益を向上させる

【目標値】

- ・水田由来温室効果ガスの削減（水稻作付面積の50%で中干し延長の取り組みをした場合）
 - ・浪江町：400t-CO₂、広野町：400t-CO₂
- ・農家の収益向上（水稻作付面積の50%で中干し延長の取り組みをした場合）
 - ・浪江町：220万円、広野町：220万円

3 実施内容

＜主な取組項目＞

- 取組1. 町内試験ほ場におけるJ-クレジット「中干し延長」の取組省力化に係る実証試験の実施
- 取組2. 町内農家へのJ-クレジット「中干し延長」の取組拡大
- 取組3. 本実証事業のプロモーション

期間	項目
2024年8月	・実証試験の事業者決定 ・実証試験の内容決定
2024年9～12月	・中干し延長の農家説明会2024
2025年1～3月	・実証試験の成果報告書2024
2025年4～9月	・実証試験の実施2025
2025年10～12月	・中干し延長の農家報告会2025
2026年1～3月	・実証試験の成果報告2025

取組1. 町内試験ほ場におけるJ-クレジット「中干し延長」の

取組省力化に係る実証試験の実施

浪江町：福島舞台ファーム株式会社の農地において試験を実施させていただきます。
広野町：株式会社横田ファーム様の農地において試験を実施させていただきます。

浪江町：福島舞台ファーム様



広野町：横田ファーム様



＜脱炭素型高収益稲作モデル＞
（持続可能な稲作）

- ✓安定生産
- ✓所得向上
- ✓環境配慮
- ✓地域振興



取組2. 町内農家へのJ-クレジット「中干し延長」の取組拡大

- 浪江町：町主催の農家説明会に参加してJ-クレジットの説明
（2025年1月25日 浪江町防災交流センター）
- 広野町：町主催の農家説明会でJ-クレジットを説明
（2024年9月4日 広野町公民館）
- JA福島さくら：いわき、ふたば統括センターで説明会を実施
（2024年11月20日）

取組3. 本実証事業のプロモーション

町職員及び、農家にインタビューしてPR記事を作成。今後PRに活用

福島舞台ファーム様



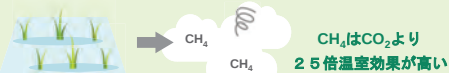
浪江町

広野町



中干し延長とは？

通常の中干し



中干しの延長



※直近2年平均+7日間の延長

4 まとめ（今後の展望）

＜自治体＞

- ・浪江町：複数の農家で取り組みの拡大が期待されています。農業分野での環境配慮への意識向上にも期待しています。
- ・広野町：地域の一次産業分野における地球温暖化対策として、温室効果ガス削減を目標とする地元農家の意識の醸成に繋がることが期待されます。

＜企業＞

- ・浪江町、広野町ともに弊社の取組にとっても協力的で大変助かっております。
- ・実証ほ場の対象農家様も前向きに本事業に取組んでくださっており、来年の試験が楽しみです。